

おきしまの伝統継承



沖島ひなまつりの復活 報告書

滋賀県近江八幡市

沖島自治会・沖島離島振興推進協議会

平成28年3月20日（日）10時30分～

沖島コミュニティセンター・沖島漁業会館

沖島ひなまつりの復活 報告書

1. 沖島ひな祭り復活の目的

平成 27 年インターン事業の取組みの一つである「若人の集い」において検討した、インターン経験者と沖島の繋がりを深める取組みとして、消えゆく伝統行事の復活を以って、沖島コミュニティの調和を図り伝統豊かな沖島の賑わいによって、新船長を含めた移住者の定住化を図る事を目的としました。

2. 事業実施に至る背景

昭和 33 年には 114 名の小学生が在籍していましたが、50 年経過した平成 24 年には 11 名まで減少しました。進む少子高齢化による担い手の減少を受け、子供会発足以来受け継がれてきた雛祭り行事が平成 27 年度から中止となりました。

沖島の人口は昭和 33 年から平成 22 年までの 52 年間で 58%減少し、平成 22 年の高齢化率は 41.4%（近江八幡市 21.5%、滋賀県 20.7%）と非常に高く、また、15 歳から 29 歳の若年者比率は 9.9%と非常に低く、平成 12 年（18.0%）から半減しました。

おきしまの喫緊の課題は、新たな担い手の育成から、消えた伝統行事の復活などにより、沖島の伝統を次の世代へ引継ぎ、活気あふれる沖島に若い世代を呼び込み定住させる事です。

3. 事業内容

- ・オリエンテーション
- ・子供たちの人形紹介

○沖島小学校に協力を頂き、事業の一環として子供たちにお暇さま人形を作成してもらいました。作成には親や地域の方に参加して頂き子ども達との繋がりを高めることができました。ひな祭り当日には子供たちが雛人形を作成する映像を上映し、出来上がったお雛さまを鑑賞しました。

- ・お雛さまめぐり

○沖島に伝わるお雛さま人形を 7 軒のお宅の協力を得て見学しました。最近の人形の美しさや、100 年以上もむかしの雛人形に沖島の歴史や風習を感じる事が出来ました。

- ・交流会

○沖島伝統の食事を囲み和気あいあいとした語らいの中、インターンの学生が企画したインターンの生と沖島の子ども達による合唱と、滋賀県立大学地域共生センターから上田助教にお越し頂き映像と対話からびわ湖の繋がりを学び、沖島の現在と過去と未来を繋ぐ事ができました。

➤子供たちの人形紹介

沖島住民や小学生、当日沖島に訪れた観光客が沖島コミュニティセンターに集まり、小学生が作成した雛人形や沖島に 100 年以上伝わる雛人形を鑑賞して頂きました。ひな祭りの当日に

沖島ひなまつりの復活 報告書

は 65 人以上が観賞されまし

たが、当日、会場内に入れなかった住民の方もおられ、翌日以降もコミュニティセンターを訪れ観賞されていました。



参加者した方からは「子供たちが描いたお雛さまの表情がみんな違って可愛い」、「子供たちの個性が出ている」、「きれいなお人形」などの声を頂き、また、高齢者の方は展示していた 2 組の雛人形に思い出を語っておられました。

>お雛さまめぐり

沖島コミュニティセンターに引き続き雛人形を飾って頂いているお宅を巡り、沖島で受け継がれてきた雛人形を見学しました。この日は暖かな日差しの中、沖島の風景を楽しみながら親子や友達と一緒に島の東から西までを歩き、春の訪れを感じることが出来ました。



尋ねたお宅では家の方から雛人形の説明を受け、また参加者からも質問を投げかけるなどし、雛人形の話で盛り上がりました。参加者からは、「古い雛人形だけど、まだまだしっかりしている」「古い雛人形はお顔が大きい」「飾りの木が本物の木で作られていることに驚いた」などの声が聞こえてきました。尋ねたお宅内の 1 軒では、インターンによるピアノ演奏に合わせて、参加者も参加して雛祭りの歌を合唱しました。

>交流会

交流会には約 100 名の方が参加し沖島の伝統料理であるびわ鱒を使ったちらし寿司や、さと団子など、琵琶湖の豊かな恵みを味わって頂きました。学生が企画した子ども達との合唱では、子供たちが大きな声で歌い参加者全員が一体となりました。その後、昭和 30 年頃の沖島の映像を映しながら、90 歳になる中島政治さんに壇上に上がって頂き、琵琶湖と沖島の繋がりをひも解きました。昔の風景と今の風景を重ねながら、沖島の新たな一面を発見する事ができました。



沖島ひなまつりの復活 報告書

➤ 成果

ひな祭りは、沖島自治会や離島振興推進協議会とインターンとの協同企画により開催しました。インターンの学生が企画したひな祭りの歌の合唱は、子ども達の参加を促す企画となり、島内外の隔てなく、また老若男女を問わず触れ合う事ができ、ひな祭りに参加された方から「子供たちをみんなで見守る事が薄れつつあり、このようにみんなで子ども達を囲む取組みを沖島では今後も続けて欲しい」とのご意見を頂きました。また、インターンの学生からは、「今後も沖島で事業がある時には、再び沖島を訪れ参加したい」と、沖島とインターン参加者との強い繋がりを作る事ができました。

沖島でのひな祭りを通じた今回の事業では、参加者一同が、子供たちの分け隔てなく見守る伝統を残し引き継ぐ事の大事さを実感し、今後に繋いでいきたいとの思いを持つことができました。

この日はひな祭りを通して、参加して頂いた方々の笑顔が輝く一日でした。